

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-201744

(P2009-201744A)

(43) 公開日 平成21年9月10日(2009.9.10)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 3 B 53/04 (2006.01) A 6 3 B 53/04 H 2 C 0 0 2

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2008-47487 (P2008-47487)
 (22) 出願日 平成20年2月28日 (2008.2.28)

(71) 出願人 505064529
 田中 良信
 栃木県下部賀郡大平町大字富田4006-13
 (72) 発明者 田中 良信
 栃木県下部賀郡大平町大字富田4006-13
 Fターム(参考) 2C002 AA04 CH04 MM04 PP02 PP03

(54) 【発明の名称】 ゴルフパター

(57) 【要約】

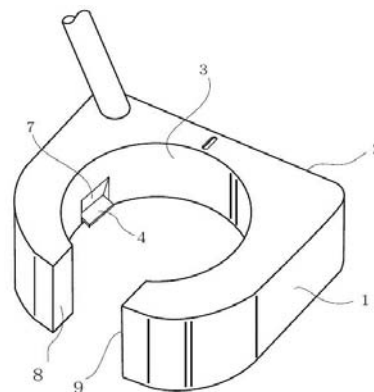
【課題】

従来のパターでは、L字状の板バネと開口部との隙間に砂や土片が挟まってしまふ。また、爪片の摺動部に砂や土片が詰まる。すると板バネや爪片の動きが悪くなりボールに傷を付けたり、ボールを拾うことができなくなる。本発明は、砂や土片に影響されることなく、容易、確実に立ったままの姿勢でボールを拾い上げることができるゴルフパターを提供する。

【解決手段】

本発明においては上記課題を解決するために、ヘッドのフェース面後部にゴルフボールが出入り可能な開口部を設け、その開口部に弾性変形可能な舌片を片持ち梁状に固定し、舌片の自由端は開口部内に突出し、上部方向への舌片の変形を許容する切り欠き部を開口面に形成したゴルフパターとする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

ヘッドのフェース面後部にゴルフボールが出入り可能な開口部を設け、その開口部に弾性変形可能な舌片を片持ち梁状に固定し、舌片の自由端は開口部内に突出し、上部方向への舌片の変形を許容する切り欠き部を開口面に形成したゴルフパター。

【請求項 2】

押さえ板の外端部形状は開口部の円弧と一連になっていることを特徴とする請求項 1 記載のゴルフパター。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

10

【0001】

本発明は、グリーンの上もしくはカップインしたゴルフボールをパターヘッドによってプレーヤーが立ったままの姿勢で屈まずに、容易、確実に拾い上げるためのゴルフパターに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来のもは開口部に L 字状の板バネを設けている。また、その開口部に爪片をスプリングで出入可能にしている。そしてカップインしたボールを板バネ、又は爪片で引っ掛けて拾い上げるパターが知られている（例えば特許文献 1）。

【特許文献 1】実開昭 5 1 - 1 1 4 1 5 7

20

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

従来のパターでは、L 字状の板バネと開口部との隙間に砂や土片が挟まってしまう。また、爪片の摺動部に砂や土片が詰まる。すると板バネや爪片の動きが悪くなりボールに傷を付れたり、ボールを拾うことができなくなる。本発明は、砂や土片に影響されることなく、容易、確実に立ったままの姿勢でボールを拾い上げることができるゴルフパターを提供する。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

30

本発明においては上記課題を解決するために、ヘッドのフェース面後部にゴルフボールが出入り可能な開口部を設け、その開口部に弾性変形可能な舌片を片持ち梁状に固定し、舌片の自由端は開口部内に突出し、上部方向への舌片の変形を許容する切り欠き部を開口面に形成したゴルフパターとする。なお、好ましくは押さえ板の外端部形状は開口部の円弧と一連とする。

【発明の効果】**【0005】**

ゴルフパターの開口部に砂や土片が付いていても、グリーン上もしくはカップインしたゴルフボールを容易、確実に、かつ、ボールに傷をつけずに拾い上げることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

40

【0006】

ヘッド 1 のフェース面 2 の後部に上下方向に貫通し、ゴルフボールが出入り可能な大きさの開口部 3 を設ける。弾性変形可能な金属製の平面状舌片 4 は図 4、図 5 に示す如く、開口部 3 の側方、下部に押さえ板 5 とネジ 6 で固定されている。舌片 4 の自由端は開口部 3 に内に突出する。舌片 4 の上部には、切り欠き部 7 が開口部 3 に形成されている。

【0007】

図 2 に示す如く、開口部 3 の径 D は、ゴルフボールの直径よりやや大きく、開口部 3 の端面から舌片 4 までの長さ L はゴルフボールの直径よりやや小さくなっている。また、ヘッド 1 の両先端部 8、9 の間隔 L 2 は開口部 3 の径 D よりも小さくなっている。

【0008】

50

舌片 4 の上部には、図 4 に示す如く上部方向への舌片 4 の変形を許容する切り欠き部 7 があるため、舌片 4 の固定部から自由端までの自由長を十分に確保でき、ヘッド 1 の開口部 3 より舌片 4 の突出長さを極めて小さくすることができる。また、ボール拾い上げ時における舌片 4 のボールへの押しつけ力が小さくなってボールを傷つけることがない。切り欠き部 7 があるため、砂や土片が開口部 3 に入っても舌片 4 の動きに支障がなく、容易、確実に拾い上げることができる。また、押さえ板 5 の外端部形状は図 3 に示す如く開口部 3 の円弧と一連になっているためデザイン上好ましい。

【 0 0 0 9 】

開口部 3 が円形の場合においては、舌片 4 の位置は開口部 3 の内であればどこでもよく複数個所あってもよい。舌片 4 の材質は弾性変形可能なものであればゴム、樹脂（プラスチック）であってもよい。また、舌片 4 は平面状でなく、ピアノ線等を用いた線条、もしくはループ状でも構わない。

10

【 0 0 1 0 】

次にゴルフボールを拾い上げる動作について説明する。グリーン上にあるボールの真上にヘッドの開口部 3 を位置させて、ヘッドを押しつけると舌片 4 がボールの通過により切り欠き部 7 内で弾性変形する。そしてボールが通過すると舌片 4 が元に戻りボールが舌片 4 に引っかかって、パターを引き上げることでプレイヤーが立ったままの姿勢で腰を屈めずにボールを拾い上げることができる。また、ヘッド 1 の両先端部 8、9 の間隔 L 2 は指の入る程度の長さにするるとボールを手に取りやすくなる。さらに、ヘッド 1 の大きさをカップより小さく形成すれば、カップ内に落ちたボールも拾い上げることが可能である。

20

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 1 】

【 図 1 】 本発明のパター斜視図

【 図 2 】 ヘッドの平面図

【 図 3 】 ヘッドの背面図

【 図 4 】 図 2 の A - A 拡大断面図

【 図 5 】 図 2 の B - B 断面図

【 図 6 】 開口部形状の第 2 実施例

【 図 7 】 開口部形状の第 3 実施例

30

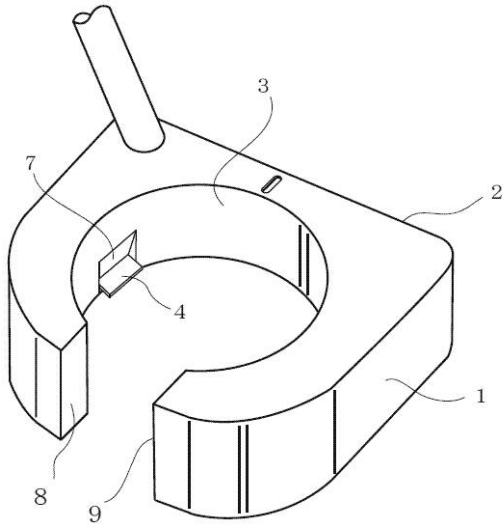
【 符号の説明 】

【 0 0 1 2 】

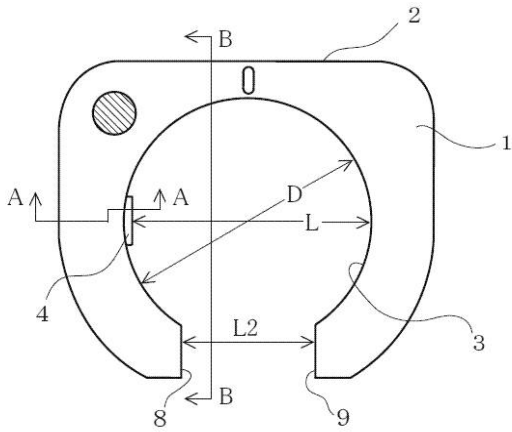
- 1 ヘッド
- 2 フェース面
- 3 開口部
- 4 舌片
- 5 押さえ板
- 6 ネジ
- 7 切り欠き部

40

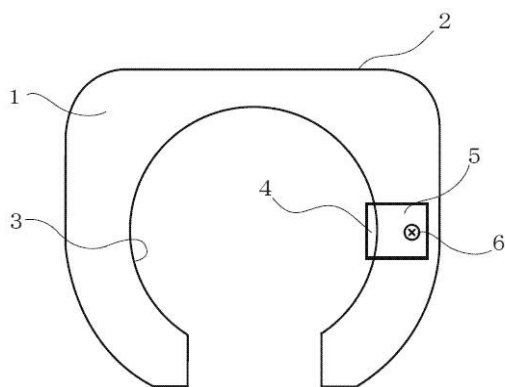
【 図 1 】



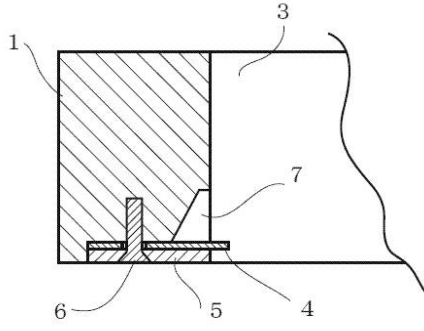
【 図 2 】



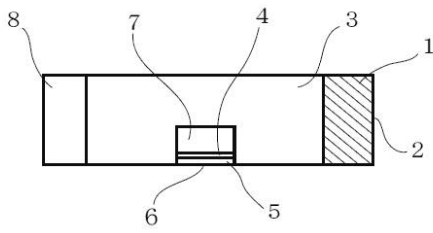
【 図 3 】



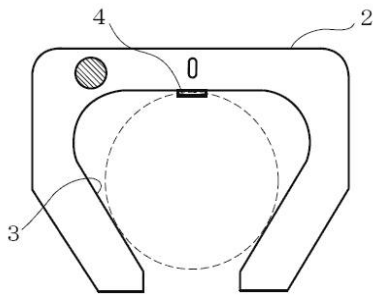
【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】

